

令和6年度 北区立西浮間小学校学校経営方針

校長 小島 みつる

はじめに

コロナ禍を経て、集団で学ぶこととその学びの場としての「学校」の存在価値が改めて問われたように思う。子供たちに学力を付けることは学校の命題ではあるが、教科学習だけが学校での学びではなく、多様な集団活動でこそ将来にわたって人と協働・協同し社会で活躍できる人を育てる事に繋がることを確信した。この経験を生かし、学校のあるべき姿をしっかりと見据え、後述を重視した教育活動を展開していく。

西浮間小に学ぶ子どもたち一人一人が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるような力を育てていく。そのために、児童の**知的的好奇心と自ら学ぶ意欲を高め、分かる授業の創造**を通して**確かな学力の定着**を図る授業を目指し、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を進めていく。

また、自他を大切にす豊かな心の育成のために**道徳教育や特別活動の取組の充実**とともに、基本的な生活習慣の育成や体力の向上に向けた取組を通して知・徳・体のバランスのとれた児童の育成に取り組んでいく。

学校教育目標

自ら育つ子

やってみたい！

なぜだろう？ 知りたい！

調べたい！ 挑戦したい！

×間違えたくない・・・

×失敗したら・・・

×面倒くさい・・・

×自分には関係ない・・・

「自ら育つ」ために育てたい力・資質

- ・ **自主性** 人に言われる前に、**やるべきこと**を自分でやる力
- ・ **想像力** 実際には経験していない事柄や人の思いなどを推し量る力・思いやり（行動力）の基礎
- ・ **主体性（自己決定力）**
何をすべきか自分の意思や判断で行動する力
- ・ **創造力** 今ここにはない新たなことを創り出す力
- ・ **協調性（よりよい仲間づくり）**
互いに高め合い、共通の目標や目的に向かって仲間と助け合う力

令和6年度の重点

「自主性と想像力」の育成

「育てる子供の姿」（目指す児童像）

- ◎自分から考え、考えたことを生かし、行動できる子
- ◎相手の立場に立って考え、人の思いを想像できる子
- ◎自分のため、人のため、みんなのために頑張れる子
- 見通しを持って物事に主体的・協働的に取り組む子
- 自己有用感をもち、互いの良さを認め合う子ども
- 命と身体を大切にし、自分をよりよく鍛えられる子
- 気持ちよいあいさつと、適切な言葉遣いができる子

目指す学校の姿

- ◎子供も、教師も、保護者も、地域も、**仲間と共に喜びを感じる楽しい学校・誇れる学校**
- ・安心安全で自分らしくいられる心地よさと高めあえる喜び <いじめをしない・させない・許さない意識と態度の育成>
- ・学ぶ楽しさ、できる喜び <確かな学力の向上>
- ・集い、力を合わせる楽しさ、心がつながる喜び <豊かな人間力の育成>
- ・頑張る楽しさ、やり遂げる喜び <健全な体力と気力の育成>

目指す教職員の姿

○全教職員が全児童の担任

- 子供の成長に夢をもち、教育の理想をもつ
- 前例踏襲にとらわれず、常に進化を目指す

★ いじめを見逃さない・許さない学校 ～「いじめをしない・させない・ゆるさない」を徹底～

1 全教育活動を通した「いじめは絶対にゆるさない、見逃さない」意識の強化と実践の徹底

★生活指導部・こども安心サポーター

- (1) 教職員が「いじめは絶対にゆるさない、見逃さない」ことを徹底 <いじめることはもちろん、それを見て見ぬふりをすることも絶対に許さない！>
- ・いじめの芽（いじり・軽んじ・悪ふざけからの暴力等も）を見逃さない⇒こども安心サポーターとの連携 / 担任以外の児童への指導も徹底
- (2) ふれあい月間（6月・11月・2月）の取組及び組織的対応の強化
- ・ふれあいアンケートの丁寧な見取りと効果的な活用 / 子供自身が「自分が大切にされている」と実感できる教師の言動を常に意識する
- (3) 道徳的実践の充実 ⇒「してはならないこと」「すべきこと」の指導を徹底

学習規律・学校と社会のルールとマナー・情報モラルと一般モラル

・間違った行動を叱る前に正しい行動をきちんと全員の前で評価

価する / 全学級で「西浮っこの約束」を徹底する

2 よりよい学級集団（学習集団）づくり

★特別活動部

★生活指導部

- (1) 学級目標を大切にした学級経営の充実 <自己肯定感、自己有用感を高める>
- ・学級目標達成を常に意識させる工夫 / 学級活動(1)の充実と学級活動(2)(3)の工夫 / 自分や学級の成長が実感できる指導の工夫
- (2) Q Uテスト分析の活用 <学校組織として結果分析を実施、学級経営案及び改善案の作成> ルールとリレーションのどちらも重要！
- (3) 指示的風土の醸成 <失敗が許される・ばかにされない集団づくり> ・いじめ未然防止<いじめの芽・いじり・軽んじを見逃さない> リレーション重視
- (4) 学ぶ喜び、できる喜びのある授業の実践 ⇒「確かな学力の向上」参照
- (5) 学習規律の徹底 ルール徹底 「一教員の間感」ではなく、学校組織としての共通な取組み（各部会提案事項）の徹底
- (6) 特別支援教育の充実 <全ての子に「特別な支援」を！> ★特別支援教育委員会
- ・他者理解力の育成 / 「多様性」を認め合える人間性の育成 / ユニバーサルデザインを意識した授業づくりと授業実践 / 「合理的配慮」の理解
 - ・特別支援教育に関わる校内リーダーとしての巡回指導担当教員の意識と専門性の向上

3 内省する力、相手の思いを想像する力を鍛え高める

- (1) 「内省する力」＝「自分の言動を振り返る力を鍛える」ことを意識した指導の実践
- ・学級目標に基づいた自己目標の設定 / 行事ごとのめあての設定と反省の実践 / 朝の会、帰りの会の内容の工夫 / 内省を意識した日記指導の実施
- (2) 「想像力」＝「『思いやり』の基礎力を鍛える」ことを意識した指導の実践
- ・ソーシャルスキルトレーニングの活用 / 常に相手意識をもたせる指導の工夫 / すべての時、すべての場における「思いやり」の意図的指導

キーワード
きたコンの効果的な活用
ICT推進委員会

○ 確かな学力の向上 ～生涯にわたって生きてはたらく知性の基礎を育てる～

1 学びの基礎となる力の確立 ★学力向上部

(1) 学習規律の徹底 ⇒ 「西浮っこの約束」を全学級・全専科授業で徹底 ※全校共通の学習ルールの徹底が学力向上の第一歩

- ・学習用具と準備（忘れ物〇） 全学年で授業開始前に机上の準備をすませる事を徹底
 - ・学習の始めと終わりの挨拶 / 返事、起立 / 正しい姿勢と正しい鉛筆の持ち方
- 特別支援教室（にっこり）でも指導を徹底する
「姿勢の保持」は集中するうえで重要。「姿勢保持」指導の工夫を

★(2) 家庭学習の習慣の確立 ⇒ 家庭学習＝宿題ではなく、家庭で学習する習慣付け <学力向上部の提案事項の徹底>

- ・復習（繰り返しドリル学習）は家庭学習で徹底 学年×10分+α / きたコンの効果的な活用

2 基礎・基本の定着を図る指導の徹底 <Cレベル児童全体の底上げとCレベル児童の半数をBレベルに！> ★学力向上部

(1) 個に応じた指導の充実 ⇒ わからないままの子をつくらない、そのままにしない 児童の思考に合わせた授業改善

- ・教えるべきことはきちんと教える / 子供に授業の見通しを持たせる / PU講師等との連携と積極的活用 / きたコンの効果的な活用
- ・ユニバーサルデザインを意識した授業づくりと授業実践（特別支援学級等の先行事例を学び、タブレットPCを有効的に活用）

(2) 算数少人数指導・習熟度別指導の充実 ⇒ 2年生から習熟度別指導を実施 <東京ベーシックドリルの活用・きたコンの活用>

- ・繰り返しドリル学習の重視 / PU講師の指導補助の改善・充実 / 放課後フォローアップ教室の効果的な実施と担任との連携強化

3 主体的・対話的で深い学びの実現 ★研究推進委員会

(1) 「なぜだろう？」「知りたいな」のある授業づくり ⇒ 教師の独演会にならない！ 児童の「自分から学ぶ」「自分で学ぶ」意識を育てる授業改善

- ・問題解決的な学習、体験的な学習の工夫 / 学習問題や課題の設定、学習計画を児童と考える授業の実践

(2) 「みんなで学ぶ」「みんなで活動する」 ⇒ 相互作用のある対話的な学びを意識した授業改善 ⇒ 仲間と学び合う活動の工夫と充実

- ・「一斉指導のみ」からの脱却 / 教師の指示による活動<児童の活動> / 「調べる→発表する→討議」等の活動の工夫

(3) 学ぶ喜び、できる喜びを体感させる ⇒ 校外学習、ゲストティーチャーや出前授業等の効果的な活用 聞くだけ<見るだけ<体験する

- ・校外学習先と内容の見直しと改善・充実 ⇒ 生活科見学・社会科見学の回数を増やす / 専門的な人から学ぶ、実際に体験して学ぶ活動の重視

(4) 「自分の思い、考えをもつ→まとめる→伝える」活動の工夫

★4 しっかり考え、しっかり伝わるように表現するための言語能力の向上【重点】 ★国語部会

(1) 全ての教育活動を通じて語彙を増やすことを意識した指導の工夫（意図的・計画的・組織的）⇒ **使える形容詞・形容動詞・副詞を増やす**

- ・ たくさんの形容詞・形容動詞・副詞等に触れさせ、「使える言葉」にしていく指導の工夫 <体験を言葉に表す活動の工夫>
- ・ 「考えながら聞く」指導の改善と充実 <「聞いているフリ」を見逃さない> / ・日本語の美しさを知る ⇒ 音読、朗読、暗唱の重視・俳句づくり
- ・ 学年の発達段階に応じた人前での発表機会の確保（原稿を見ないで発表させる） <朝の会、帰りの会でのスピーチタイムを実施>
- ・ 正しく丁寧な文字を書かせる指導の重視 <視写・聴写テスト（特別支援部提案）実施、誤字・誤書き順・乱暴な文字を見逃さない指導の徹底>
- ・ 3年生全員が国語辞典を購入⇒6年生までしっかり活用させる

★(2) 読書活動の充実 ⇒ **読書時間、読破冊数、読書の質の向上** 【重点】 ★読書活動推進委員会

- ・ 学校図書館利用時間の確保 / ・読み聞かせ（全学年で実施）、ブックトーク等の活動を工夫 / ・全校統一の読書習慣の取組み等の実施
- ・ 児童主体の活動の充実 / ・家庭を巻き込んだ読書活動の実施

★5 特別支援教育の充実 <授業のユニバーサルデザイン化を意識した授業改善> ★特別支援教育委員会

- ・ 合理的配慮と、どの子にも個に応じた「特別な支援」を普通に行う授業の実現 <担任・専科が行う日常授業での意識改善> / ・「見て学ぶ」工夫のある授業
- ・ 誰もがわかりやすい＝ユニバーサルデザイン 板書、掲示物、発問・指示は常に特別支援対象児を意識する
- ・ M I Mの活用⇒低学年国語の指導に活かす

○ 豊かな人間力の育成 ～仲間と心を通わせ力を合わせて、よりよく生きる力を育てる～

1 人と人との関わりを大切にし、コミュニケーション能力を高める <人間関係のスタートは「あいさつ」「返事」から！>

★生活指導部

★(1) あいさつと返事の徹底

・**教師が見本に!** / ・**呼名⇒返事** の指導徹底 / ・児童が主体的に取り組む「あいさつ運動」の工夫と実践

・「考えながら聞く」指導とあわせ、話しかけられたことには返事をするを徹底 / ・家庭、地域との連携

(2) さくら草の取り組みを核として、地域と地域の人々を大切に思う心の醸成 ⇒ 「地域で育つ子」、「地域を誇りに思える子」の育成

・さくら草を栽培すること自体が目的ではない！さくら草の取組を通して身につけさせたい力を再確認し明文化

(3) 互いに認め合える人間関係づくり

・ひとりひとりが活躍できる場の設定と価値付け / ・学級活動(2)、(3)の改善充実 / ・巡回心理士、スクールカウンセラー、関係機関との連携強化

★2 特別活動の充実 <自主的・実践的に取り組む力、人間関係を形成する力の育成> 【重点】

★特別活動部

(1) 学級目標を大切にしたい学級経営の充実 <自己肯定感、自己有用感を高める> **学級経営案の作成**

・学校教育目標 → 学年(経営)目標 → 学級(経営)目標 → 学級がんばり目標 / ・学級目標達成を常に意識させる工夫

・学級活動(1)の充実と学級活動(2)(3)の工夫 / ・自分や学級の成長が実感できる指導の工夫

(2) これまでの研究成果を生かした「**正しく普通の学級活動**」の実践・**学級会前の計画委員会は必須の学習活動!**

・**確実な学級会の実践** / ・「みんなで話し合い、みんなで決定し、みんなで活動し、みんなで振り返る」学級活動の確実な実践

・**自主的、自発的**に自分たちの生活をよりよくしようとする児童の育成を図る。 / ・全学年、全学級で同様な指導の実践を継続

(3) 全校一致した学校行事における指導の充実 ・ ・ ・ **事前→実践→事後** の指導の工夫と徹底

★特別活動部から提案!

・「**付けたい力**」を明確にし、めあてと振り返りの指導を徹底 / ・「本気」で取り組ませる指導の工夫 / ・学校、学級への所属意識を高める指導の工夫

・**創立65周年行事の実施**を通して児童の愛校心、所属意識を育成

(4) フレンド班(縦割り班)活動の充実 ・ ・ ・ 前例踏襲に終わらない、明確なめあてをもった縦割り班活動を計画的に進める

・「付けたい力」を明確にして、全学級で縦割り班活動の事前→実践→事後指導を徹底 / ・各縦割り班の指導は、各担当者が主体的に行う

(5) 児童が主体的に取り組む児童会活動・クラブ活動の充実

- ・自治的活動の奨励 / ・**児童の創意ある活動**を必ず予定に入れる（委員会活動が常時活動のみにならないようにする）

3 本気を出して頑張ったことが認められる学級・学校をつくる <自己有用感を実感できる学級・学校づくり>

(1) 頑張ることはカッコいい、頑張る自分が好き、と思える指導と経験を積み重ねる

- ・活動に見通しをもたせる（ゴールを明確に示す） / ・友達同士で認め合い、賞賛できる集団づくりの推進 / ・頑張らなくてはいけない状況を意図的・計画的に設定し、徹底的に頑張る経験をさせる / ・価値ある「頑張ったこと」を認め賞賛する

(3) 自分のための頑張りから、みんなのための頑張りへ

- ・人は互いに支え合って生きていることを実感させるとともに、人に喜んでもらえる喜びを体感させる。<道徳、特別活動、総合的な学習の時間、生活科等の指導の工夫> / ・行事の係活動を児童にとって遣り甲斐のあるものにする。<高学年の頑張りを下学年や保護者に伝え、皆で称賛する>

○ 健全な体力と気力の育成 ～あきらめず、投げ出さず、頑張りぬく活力のある人間を育てる～

1 自分の健康を考え、すすんで体を鍛える子を育てる（体力の向上と運動能力の向上） ★体力向上部

(1) 健康的な生活習慣の確立

- ・健康に関する指導の充実＜身体測定・健康診断の効果的活用、学級活動(2)の充実＞
- ・家庭と連携した「早起き、早寝、朝ごはん」等の正しい生活リズムの習慣化を図る

(2) 運動習慣等をしっかり身に付けさせる

- ・休み時間の外遊びの励行 / ・各種運動週間、体力テスト項目月間強化計画、遊び紹介等の実施

(3) 体力テストの結果の活用した体育授業の充実改善

- ・体力テスト結果の分析実施 / ・効果的な活用方法の研究と体育指導での実践 / ・進んで運動に取り組む意識が育つ体育指導の工夫

2 食育の推進 ★食育委員会

(1) 指導計画の改善・充実

- ・各教科、総合的な学習の時間、生活科、特別活動との関連の明確化 / ・ランチルームの効果的活用

(2) 望ましい食習慣及び食のマナー指導の充実

- ・栄養士との連携 / ・**全校一致した「給食の約束」の徹底**

3 安全に対する意識と態度の育成 ★生活指導部

(1) 防災教育の充実

- ・「自助と共助」意識の醸成 / ・避難訓練の充実 / ・安全指導日の指導内容改善・充実 ←明確に教育課程に位置づける

(2) 交通安全指導の徹底

- ・交通安全教室の実施 / ・自転車の乗り方指導の徹底

(3) 不審者等犯罪にまきこまれない指導の充実

- ・学年の発達段階に応じた効果的なセーフティー教室の実施 / ・迅速な情報収集及び活用 / ・警察（スクールポーター）との連携

(4) 情報モラルの育成・向上 ★ICT推進委員会

- ・情報モラルに関する授業（出前授業含む）の実施 / ・保護者への啓発

(4) 生活安全に関わる指導の充実

- ・日常生活における危険行動の防止指導の充実 / ・遊具や用具、施設の適切な使い方の指導を徹底 / ・校内での怪我を減らす取組の実施
- ・自分自身の体調や健康状況を理解し、主体的に安全を意識して行動できる力を伸ばす

(5) 自他の命を大切にする指導の充実

- ・道徳（生命尊重）や学級活動(2)の指導の工夫と充実 / ・学校教育相談、スクールカウンセラーとの連携強化

目指す教職員の姿 ⇒ チーム西浮間

1 学び合い、高め合い、質の高い教育を推進できるチーム西浮間

- (1) 体罰などあり得ない深い児童理解と人間愛 <見えないものを見る目、聞こえない声を聴こうとする耳、知らないことを感じ取ろうとする心をもった教師>
 - ・目の前の子供を知る努力を怠らない / 目の前にいる子供の親の思いへの理解に務める / 目の前にいる子供の将来の姿を思い描いて指導する
 - ・子供の成長、価値のある頑張りを見逃さない
- (2) 授業力・専門性の向上 <教えるプロとしての自信と誇りと実力をもった教師・・・児童の前で赤刷り教科書を持って授業しない！>
 - ・教師は授業で勝負 / **授業改善を怠らない** / 校内研究の充実
- (3) 子供の成長に夢をもち、教育の理想をもつ <理想無きところに達成感なし・理想をもたない者に教える資格なし>
- (4) 人間性の向上
 - ・識見を広げ深める（雑学も重要） / **相手の話を聞く** / 教師としてのリーダーシップと人としての謙虚さ / 笑顔と挨拶の徹底
- (5) 研修会・研究会への積極的参加 <学ぶ姿勢の無い者には教える資格なし>
 - ・常にキャリアアップを意識する
- (6) 育てられたら育て返す
 - ・先輩教師からどん欲に学ぶ姿勢 / 若手育成 / 先輩を敬う心、後輩を育てる心を大切にする

2 機動性に優れた組織として機能するチーム西浮間

- (1) 協力・協働する教職員
 - ・組織体（チーム）としての一体感をもてる集団 / 経営参画意識の向上 / **事務分掌の効率化**
- (2) 危機管理に対する共通理解と主体意識
 - ・日常の危機管理の共通理解を組織として徹底
 - ・いじめ、不登校、児童虐待等の問題行動に対して、職員全員の共通理解のもとに一致団結して児童第一の対応を即時的に行う⇒いじめ防止対策委員会の充実
- (3) 前例踏襲にとらわれず、常に進化を目指す <「馴れ合い」には進歩はない >

3 教育環境の向上

- (1) 校内（廊下、掲示板）環境、教室環境の確実な整備 <安心・安全できれいな環境の徹底>
 - ・人権に配慮した掲示物 / 子供の作品、季節感、日本の伝統（行事）が大切にされる環境 / 貼ったものははがす！<掲示物はナマモノ>
 - 清潔できれいに整った教室環境の実践** / **整理整頓（使った物は元に戻す！）**
- (2) 実のある「働き方改革」の実施
 - ・全学年に空き時間を設定⇒専科、担任の持ち時間差の解消 / 事務分掌の効率化⇒校務事務細分化を明確にすることで一部の人に負担を集中させない

4 開かれた学校の推進

- (1) 地域行事への積極的参加 <学校への協力（要請）と地域への協力はFifty-Fiftyで>
 - ・さくら草の取り組みの充実 / 学校評議委員会の改善・充実 / スクールコーディネーターとの連携、地域人材・教材の積極的活用
- (2) 学校広報の充実
 - ・ホームページによる積極的発信、全職員による更新実施 / 学校便りの充実 / メール配信システムの有効活用
- (3) 保護者の意見苦情等は本校に寄せる期待、指導は自分への期待（・・・と受け止めよう）

5 服務規律意識の向上 <信用を得るには長い時間が必要だが、信用を失うのは一瞬である>

- (1) 24時間教育公務員の自覚
- (2) 報告・連絡・相談の徹底

**学校は大きな手漕ぎボート
みんなで同じ方向にこぎ続けられれば、
小さな力でも大きな成果が！**